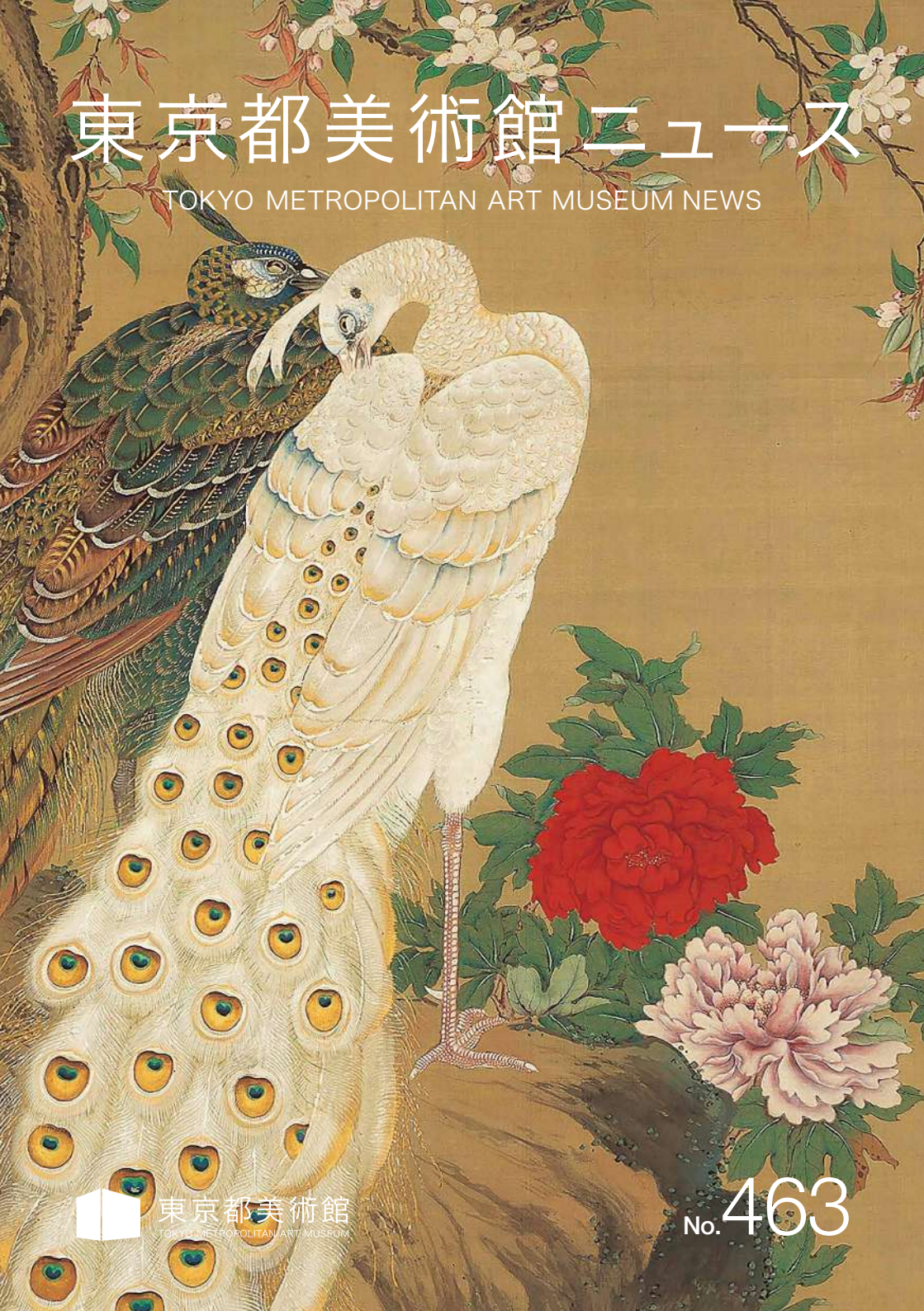


東京都美術館 ニュース

TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM NEWS



東京都美術館
TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

No. 463

人と作品、人と人、人と場所をつなぐ

Art Communication

美術館が作品を鑑賞する場にとどまらず、鑑賞を「体験」として、より深める場所になるように、さまざまなアート・コミュニケーション・プログラムを展開しています。

今回は、日本で初めて開催された国際博物館会議（以下ICOM）大会について、国際委員会でのアート・コミュニケーション事業に関する発表や東京でのポストカンファレンスツアーの様子も交えてご紹介します。

The Museum offers art communication programs designed to take visitors beyond simple viewing to a deeper "experience" of the artworks. This time, we discuss the first International Council of Museums (ICOM) to be held in Japan with a special look at keynote speeches on art communication projects presented at CAMOC (International Committee for the Collections and Activities of Museums of Cities) and the post conference tour of Tokyo.

日本初開催!

ミュージアムの在り方を問い直す

First ICOM in Japan! Seeing museums from new perspectives

第25回 ICOM京都大会2019

ICOM Kyoto 2019 25th ICOM General Conference

国際博物館会議 京都大会



1-7 September

2019年9月1日～7日にかけて、第25回ICOM京都大会が開催されました。世界各国から多くのミュージアム関係者が参加し、ミュージアムが持続可能な社会にどのように貢献することができるのか、議論する場となりました。

ICOM Kyoto 2019 25th ICOM General Conference was held from September 1 to 7 with the participation of museum professionals from nations around the world. Discussion was devoted to ways in which museums can help create a sustainable society.

ICOMとは? What is ICOM?

ICOM (International Council of Museums; 国際博物館会議) とは、ミュージアムとミュージアムの専門職からなる国際的な非政府組織です。1946年に創設され、138の国と地域の44,000人以上の会員がいます。ユネスコと協力関係にあり、経済問題や社会問題に関して必要な議決や勧告を行う国連の経済社会理事会の諮問資格も有しています。

The International Council of Museums (ICOM) is a worldwide non-governmental organization of museums and museum professionals. Created in 1946, it has over 44,000 members representing 138 countries and territories. ICOM maintains formal relations with UNESCO and also has a consultative status with the United Nations Economic and Social Council, which makes necessary resolutions and recommendations on economic and social issues.

ミュージアムは持続可能な社会に どのように貢献できるのか?

How can museums help create a sustainable society?

もしかしたら、皆さんはこの問い掛けに驚かれるかもしれません。しかし、ミュージアムの役割は過去を蓄積することだけではありません。ICOM京都大会2019で問い直されたのは、まさにこの「持続可能な社会への貢献」という言葉に象徴されるような、未来に向けて今の社会と関わり合う役割についてでした。

グローバルな組織であるICOMには、118の国別委員会と専門分野に応じて組織された30の国際委員会があります。3年ごとにすべての委員会が集まる「大会」は、世界のミュージアムが直面している今日的な課題と新たな解決策を話し合うための重要な国際会議です。「大会」には毎回テーマが設定され、新しい時代のミュージアムのビジョンが議論されています。

今大会のテーマは、「文化をつなぐミュージアム—伝統を未来へ—(Museums as Cultural Hubs: The Future of Tradition)」。ミュージアムが「文化の結節点(Cultural Hubs)」として、時代や文化を越えて多様な人々や組織をつなぎ、平和で持続可能な社会にどう貢献していくべきかが問い直されました。

大会で白熱した議論となったのが、「ミュージアムの定義」の改定についてです。文化財の収集や保管、研究、展示といったこれまでの活動



大会メイン会場は国立京都国際会館

The main venue: Kyoto International Conference Center



国際委員会 (CAMOC) での発表の様子

Keynote addresses at CAMOC

の定義に加えて、「民主化を促し、社会的な排除をせず包摂的にさまざまな声に耳を傾ける」こと、「人間の尊厳と社会正義、世界全体の平等と地球全体の幸福に寄与することを目的とする」ことなどが新しい定義として検討されました。

背景には、貧困や格差、気候変動など緊迫した地球規模の課題解決に向けて国連で採択され、官民が連携して世界共通に取り組む「持続可能な開発目標(SDGs)」があります。一人一人の尊厳や文化的多様性を大切に「誰一人取り残さない」ことを理念とするものです。

ミュージアムもこの実現を目指す主体の1つとして、時代の潮流に目を向け、未来に向けて社会が抱えるさまざまな課題に応答することが、今求められているのです。

こうした議論を深めるための事例の1つとして、当館と東京藝術大学が取り組むアート・コミュニケーション事業について、都市をテーマとする国際委員会(CAMOC; International Committee for the Collections and Activities of Museums of Cities)にて発表しました。当館学芸員の稲庭彩和子と藝大美術学部准教授の伊藤達矢氏が登壇。事業の中から、外国にルーツのある子どもたちを対象に、作品を鑑賞する活動にアート・コミュニケーションが伴走した社会包摂プログラムと、それを支えた美術館と大学と多様な背景を持つ市

民がアートを介してコミュニティを育む「とびらプロジェクト」^{*3}の活動を紹介しました。

多文化共生社会を目指す東京で、文化財を介して多様な人々が孤立せずつながり合う回路としての役割を果たすことで、社会と積極的に関わり合う新しい時代のミュージアムの在り方を提示しました。

大会後には、東京でのポストカンファレンスツアーも開催され世界各国から約40名が参加しました。視察ツアー後の当館での交流会では、視察の気づきや発見が話し合われ、文化をつなぐ都市のミュージアムについて考えを共有し合う貴重な機会となりました。

(東京都美術館 学芸員 熊谷香寿美)



ポストカンファレンスツアーでの交流の様子

Exchange among members during the post-conference tour

- *1 2019年9月現在
- *2 Museum Startあいうえの「ミュージアムトリップ」
<https://museum-start.jp/h30/19275>
- *3 とびらプロジェクト <https://tobira-project.info/>

寛永寺境内にある虫塚は、写生に使った虫類の霊をなぐさめるため、伊勢長島藩主・増山雪斎の遺志により、文政4(1821)年に建てられました。増山雪斎(1754-1819年)は、多くの優れた花鳥画を描いたことでも知られますが、「ボストン美術館展 芸術×カ」(2020年4月16日~7月5日、東京都美術館)では、代表作ともいえる質の高さを誇る《孔雀図》(1801年)が本展のために修復され、初めての里帰りを果たします。(東京都美術館 広報担当係長 山崎真理子)

The Mushizuka ("insect mound") at Kan'ei-ji Temple was erected in 1821 as a last wish of Mashiya Sessai, lord of the Ise Nagashima Clan (present Mie prefecture), who desired to console the souls of the insects he used as models for sketching. Mashiya Sessai (1754-1819) is known for his numerous bird-and-flower paintings. His masterpiece, the delicate, exquisitely colored *Peafowls and Flowers*, has been restored for its homecoming appearance in "Art & Power: From Pharaohs to Daimyōs. Masterworks from the Museum of Fine Arts, Boston" (April 16-July 5, 2020, Tokyo Metropolitan Art Museum).

(YAMAZAKI Mariko, Chief of Public Relations)



虫塚

Mushizuka

東京都美術館 ニュース No.463

TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM NEWS

発行日 2020年3月31日
発行 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館
企画・編集 東京都美術館 広報担当
デザイン 株式会社ファントムグラフィックス
翻訳 アムスタッツ コミュニケーションズ
印刷・製本 株式会社ルナテック

©Tokyo Metropolitan Art Museum

東京都美術館
〒110-0007
東京都台東区上野公園8-36
Tel 03-3823-6921
Fax 03-3823-6920

公式サイト
<https://www.tobikan.jp>

Twitter
tobikan_jp
tobikan_en

Facebook
TokyoMetropolitanArtMuseum

表紙の
写真

増山雪斎《孔雀図》(部分) 江戸時代、享和元年(1801)

Mashiya Sessai, *Peafowls and Flowers* (detail), Edo period, 1801

Museum of Fine Arts, Boston, Fenollosa-Weld Collection Photograph © Museum of Fine Arts, Boston